



## 創立の背景と歴史

名古屋英和学校時代には、内村鑑三が教鞭をとったこともありましたが、赴任したのは1896年（明治29）。内村はここでの教員生活を、札幌農学校の教授であった新渡戸稲造に、「僕はエンジョイし居れり、嘗て教えたる何ものよりも以上に其をエンジョイし居れり」と楽しく教え、楽しく学ぶ往時の校風を書き送っています。

名古屋学院大学の前身となる〈私立愛知英語学校〉を、1887年（明治20）名古屋市南武平町（現・中区）に開いたアメリカのメソジストプロテスタント派の宣教師フレデリック・C・クラインは、1883年（明治16）に来日し、はじめは横浜の美以教会を中心に活動しました。

当時の名古屋は日本第4の人口を擁していましたが、市制の施行も東海道の開通も1889年（明治22）からだったため、クラインとメリー夫人は海路で四日市に上陸し、名古屋入りしています。キリスト教の伝道も、まだ未開拓で、英語教育もごくわずかに行なわれているにすぎませんでした。

当時、名古屋で英語教育を始めていたのは、公立では愛知英語学校（現・旭丘高校の前身）、私立では英学塾と敵半義塾がありました。英学塾主宰の山根虎治郎と敵半義塾主宰の山田大応は、クラインの伝道と教育に対して援助を与え、当時の愛知県知事 勝間田稔も深い理解を示したといわれています。

1960年代から始まった大学の設置構想は、ただ単に中高生の急増だけを見越したものではありませんでした。戦後の文化尊重の気運、アメリカの教育体制の影響を受けた一般教養の向上と教養人の養成という動きが定着し、これが大学進学率を上げることは必至と判断されました。加えて、経済成長による高等教育増大の可能性がありました。

初代学長の福田敬太郎は、キリスト教主義による名古屋学院の一貫教育の理想を完成し、中部経済圏の我が国全体における役割の躍進にそなえて必要な人材を供給すること、開学時より、人文科学ならびに自然科学の各分野にわたって整備された総合大学となることを志向しました。

福田は、神戸大学の第3代学長（在任1959～1963年）を務め、「神戸にA級の総合大学をつくる」こと、すなわち「神戸大学が、我が国で第8の国立総合大学として充実される」ことに尽力した人物です。第7番目までは旧制帝国大学の系譜を引く大学であり、福田の思いは神戸大学を帝国大学並みの大学にすることを意味しています。県立であった神戸医科大学と兵庫農科大学を神戸大学に移管し、医学部と農学部を設置。散在していた学舎を統合しました。福田は、神戸大学でこれらの働きを成し遂げて、名古屋学院大学の初代学長として就任し、「大学は（真理を探究し、人格を陶冶する）ところである。真理は隠されているけれど、それを求めるものに明らかに啓示される。そこに真理を探究する者の望みがある」として、キリストの教えである「敬神愛人」と真理の探究である「幽玄啓明」の二つを大切にすることを、折に触れて表わしました。



創立者 フレデリック・チャールズ・クライン  
(1857～1926年)  
「敬神愛人」の精神で、名古屋における  
キリスト教開拓伝道を行ないました。

## 創立

1959年（昭和34）の理事会記録によると、創立70周年記念事業の準備計画の中に、学院の拡充と70年史の編纂が企画されています。

前身である愛知英語学校の創立の年、1887年（明治20）から数えれば、1957年（昭和32）が70周年にあたりますが、この時代、創立についての認識には、まだあいまいなところがあったようです。

ともあれ翌年には〈名古屋学院拡充金銭信託〉の募集が始められました。これまでも長久寺町から大幸町への移転や増築で寄付金の募集があったこと、伊勢湾台風による被害のあとであったことから、金銭信託を通して資金を借り入れることになったからです。

1961年（昭和36）には新しく学院後援会が発足して、中部日本新聞社社主 大島一郎がその会長に就任しました。『名古屋学院史』も完成し、その編集の過程で創立の経緯などが明らかになったこともあり、卒業生や父兄からの協力体制もいっそう強まりました。

1947年（昭和22）から1949年（昭和24）ごろに起こった出生ブームはのちにベビーブームと呼ばれ、団塊世代と命名される社会現象になりました。このときに生まれた子供たちが、1958年（昭和33）から中学入学の学齢に達するため、各学校では生徒急増に対応するさまざまな手当てが計画されていました。大幸町に広大な校地を構え、長い歴史を持った〈名古屋学院〉も、関係方面から大きな期待が寄せられていました。

1964年（昭和39）名古屋学院大学は、経済学部経済学科（定員200名）で開学。2年後には商学科が開設し、将来の学生数増加と将来計画に従い、1968年（昭和43）全学が瀬戸学舎に移転します。1973年（昭和48）学校法人名古屋学院から法人分離し、〈学校法人名古屋学院大学〉となりました。

## 建学の精神

クライン博士が建学の精神としたのが「敬神愛人」という言葉です。聖書には「主を畏れることは知恵の始めである」とあり、人間のおごりを戒めています。そして「隣人を自分のように愛しなさい」と、一人では生きていけない人間だからこそ、他者を愛することの大切さを説いています。この「敬神愛人」を英語で表現すると“Awe to God, Love to Humankind.”であり、神を敬うことが“awe”、すなわち「畏れよ」という意味であることに、現代に生きる私たちは気づく必要があります。

人間のおごりを戒め、人との調和を説く、この「敬神愛人」の精神は、名古屋学院の歴史の中にしっかりと根を張り、今も息づいています。



名古屋学院大学 校章・マーク  
1964年（昭和39）1月に大学設立が許可され、大学の文字の両側に「名」と「院」を配しオリーブ樹がとり囲んでいる校章が定められました。

## 学校法人 名古屋学院大学

〒456-8612 愛知県名古屋市熱田区熱田西町1-25

TEL : 052-678-4080 FAX : 052-682-6811